

## 探訪場所の簡単な解説

参考資料：五日市町史・無漏西游他

### ① 三内神社参道の五日市線踏切

所在：あきる野市三内 番地

●五日市線三内信号扱所と呼ばれ、

武蔵五日市駅から岩井支線の大久野駅・武蔵岩井駅に行く列車は、ここでポイント交換をして、進行したとのこと。

### ② 東京都指定有形文化財・小机家住宅

「説明板」「五日市町史」より

所在：あきる野市三内490番地

建築：明治8年（1875）頃

施主：小机家第7代・小机三左衛門

深川木場からの帰途明治の文明開花の銀座煉瓦街の洋風建築を見て刺激され、自宅新築に当って採り入れた。

様式：土蔵造りの中に洋風の建築様式を採り入れた洋折衷様式（多摩のあゆみ145号で酒井哲氏は擬洋風建築という）

\* 列柱廊・2階バルコニーのローマ・ドーリア式円柱

\* 玄関土間の壁の兎の浮彫を採り入れた鏤絵

（酒井氏は左官の腕の良さを知るといふ）

\* 正面外壁コーナー部分の漆喰の石積み意匠

（酒井氏は擬洋風建築ではこの意匠をよく見るといふ）

\* 輸入材の鉄枠付防火扉とガラス障子戸のギヤマン

（酒井氏は観音開きの掃出し窓をフランス窓といい、その外側に鉄製の鍍戸が設けられているといふ）

\* 輸入材の波型亜鉛引鉄板（トタンの波板）の屋根

逸話：秋川水力発電当時の照明器具と配線をそのまま使用。

●小机家：

江戸時代後期に山林業で財を成し、幕末頃から深川木場との商取引も頻繁に行っていた。小机三造は、秋川水力電気会社の設立において、五日市町長岸忠左衛門とともに推進役を果たし、大正5年に受電方式の送電を開始、大正12年に水力発電を開始した。また、この2人は五日市鉄道株式会社の設立にも尽力した。しかし、三造は鉄道開通の1年前の大正13年4月に、脳溢血のため倒れ、死去した。

### ③ 国指定天然記念物・幸神神社のシダレアカシデ

所在：日の出町大久野2129番地

指定：昭和17年7月21日

科属：カバノ木科クマシデ属、別名ソロノキの変種

幹周：2、12メートル

樹高：5、80メートル

樹齢：700年以上

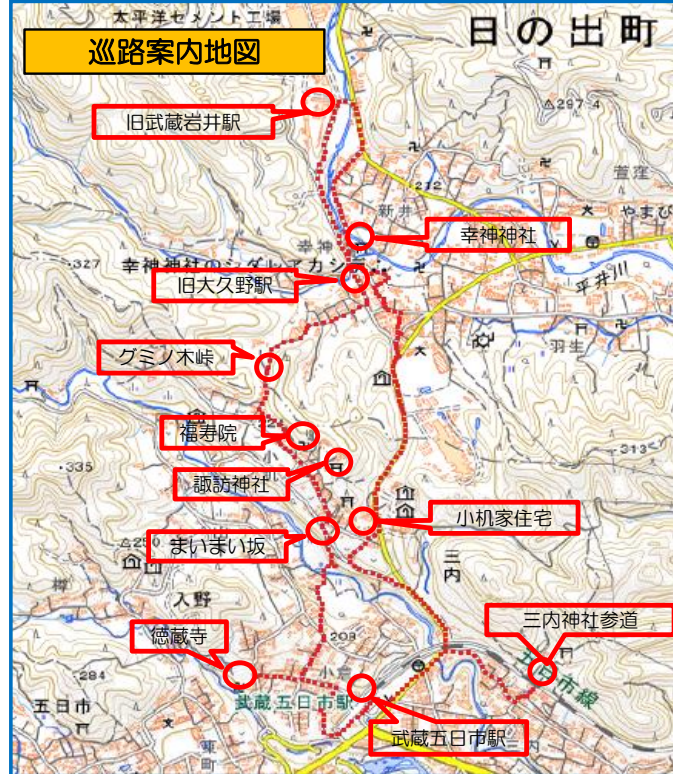
見所：春先の新芽と緑、冬の枝誰れと瘤々とした樹幹

●幸神神社

創立：建武2年（1335）

祭神：猿田毘古大神

由緒：山城国出雲路幸神を勧請し、幸神大神と称す



### ④ 五日市鉄道と岩井支線 「説明板」「五日市町史」より

●五日市鉄道開業とその後の経緯：

- \* 大正10年 五日市鉄道株設立  
小机三造と岸忠左衛門が推進役となる。  
岩井支線で浅野セメント工場を誘致する計画を含んでいた。
- \* 大正14年 五日市鉄道開業
- \* 昭和15年 南武鉄道と合併
- \* 昭和19年 国有化され、「五日市線」となる
- \* 昭和46年 武蔵五日市～武蔵岩井間の旅客輸送廃止
- \* 昭和57年 武蔵五日市～大久野間の貨物営業廃止に伴い、岩井支線全てが廃止

●岩井支線・旧武蔵岩井駅跡と旧大久野駅跡

\* 平成28年 路線廃止後、旧武蔵岩井駅のホームは、旧日本セメント(株)西多摩工場駐輪場として使用されてきたが、勝峰山林道の開設工事に伴い解体



<かつての武蔵岩井駅>



### ⑤ グミノ木峠 「五日市の古道と地名」より

●五日市小学校の東側、小字東入野で地廻り道と分れ、急な坂を下りて樽沢を渡り、小倉の台地上る。小倉の台地を超えて三内川の谷を下り、北側の小机台地上る坂が「まいまい坂」。小机台地の福寿院西側をまわって「グミノ木峠」を越え、大久野の幸神に出る。この道筋が青梅古道である。小倉に徳蔵寺、小机に福寿院があり、何れも室町時代の創建で、この道が古道であることを物語る。

### ⑥ 徳円山 福寿院（臨済宗 建長寺派）

「五日市町史」「無漏西游」より

所在：あきる野市三内601番地

創建：文安年間（1444～49）

開基：明善庵主

開山：広徳寺3世天叔和尚の法嗣明天察禪師

文明10年（1478）寂

本尊：聖観世音菩薩（記稿は木の立像長1尺余）

備考：本堂27坪・庫裡6坪・境内地308坪

### ⑦ 諏訪神社 「五日市町史」より

所在：あきる野市三内573番地

創立：天正11年（1583）という

祭神：建御名方神

由緒：信濃国諏訪大神を勧請し、諏訪大明神と称す

### ⑧ まいまい坂 「五日市町史」より

所在：あきる野市小机。慶応2年6月、慶応の打ちこわし一揆が押し寄せ、五日市村を中心とした防衛隊と衝突した所。

慶応の打ちこわしの経緯

- \* 13日 夜 武州秩父郡名栗村に勃発した。食料高に悩む困窮者層による悪徳穀商・質屋等の打ちこわし一揆。
- \* 14日 飯能村から、東は扇田屋方面、北は越生方面へ展開。
- \* 15日 南は青梅方面へ展開。一隊は長淵、吹上、駒木野、柚木、下村、和田村と順次打ち壊し、人員増加する。
- \* 16日 朝 梅形峠越え
- \* 16日 昼 大久野村各方面打ち壊し
- \* 16日 夕 羽生村伝蔵方で酒食の提供をうけ、五日市へ。
- \* 17日 午前3時頃

一揆の主力は小倉山下の青梅街道、通称まいまい坂に迫ってきた。一揆の徒党は暁間にとどろく鉄砲におびやかされ、強力な竹槍隊にはばまれ、一揆側は、2名の死者と21名の生捕人を残して、逃げ去った。死者は下大久野村と沢井村の百姓。生捕人も青梅各村々と大久野村々の人々で約半数は江戸で獄死。

防衛隊：農兵隊11人、鉄砲隊51人（猟師鉄砲であろう）

竹槍隊 883人の計945人

### 福祐山 徳蔵寺（臨済宗 建長寺派）「五日市町史」より

所在：あきる野市入野18番地

創立：文明13年（1481）という

開基：不詳

開山：柏芽樹禪師 天分13年（1544）寂

本尊：地藏菩薩立像